

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|------------------------|----------------|---------------|--------------|
| 保育実習Ⅱ Application of Day Care for Children-Ⅱ | | 2年 | 通年 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 実験実習 | 選択 | (保育士養成課程選択必修) | 児童フィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 小竹利夫 | 講義棟2階 | 月・火・水・木の8時～18時 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 保育所において、児童福祉に関する知識や技術を基に保育計画を立案し、実際の保育に参加し、部分実習や責任実習を行う。その中で、家庭と地域の生活実態にも触れ、子どもの保育及び保護者支援について学び、実践力を養う。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①既に学習した保育や児童福祉に関する教科の知識や技術を基礎として、保育活動や保護者支援ができるようにする。 ②子どもの発達と個人差や家庭環境の違い等にも目を向けた保育活動を目指すことができるようにする。 ③目的意識を持って保育活動を立案し、部分実習、責任実習ができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 保育実習の必要性和保育の実践方法を考えながら、保育所にて11日間（実習時間90時間以上）の実習を行う。実習施設によっては、土曜日・日曜日・祝祭日の実習、また行事や遠足などの園外保育にも参加する。保育活動の立案をし、部分実習または責任実習を1回以上実施する。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①保育所の機能と役割を考えながら子どもの保育及び保護者支援を実践することができる。 ②子どもの発達と個人差に目を向けた保育活動に取り組み、子どもの気持ちを考慮した保育をすることができる。 ③目的意識を持って保育活動を立案し、部分実習や責任実習を通して子どもの成長に寄与することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 | | | |
| 第2回目 | (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 | | | |
| 第3回目 | (2) 保育所の社会的役割と責任 | | | |
| 第4回目 | 2. 観察及び参加に基づく保育理解 | | | |
| 第5回目 | (1) 子どもの心身の状態や活動の理解 | | | |
| 第6回目 | (2) 保育士等の動きや実践の理解 | | | |

| | | |
|---|-------------------------------------|--|
| 第7回目 | (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 | |
| 第8回目 | 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 | |
| 第9回目 | (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 | |
| 第10回目 | (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 | |
| 第11回目 | (3) 地域社会との連携 | |
| 第12回目 | 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 | |
| 第13回目 | (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価 | |
| 第14回目 | 5. 保育士の業務と職業倫理 | |
| 第15回目 | 6. 自己の課題の明確化 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 100% | 実習施設において評価された以下の5段階評価に基づく。1や2の評価は不可に値する。 (5:優れている 4:やや優れている 3:普通 2:やや努力を要する 1:努力を要する) |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容(態度含む) | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 佐野短期大学「保育実習の手引き」 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 保育実習指導Ⅱの授業を必ず履修し、単位修得の成績を得ていること。 保育士養成課程必修の科目において、不可の科目や欠時不認定の科目が多数ある場合は、面談の上、実習実施の可否を判断する。 実習状況によっては、実習延期や中止も検討する。 | | |